



武江年表

六



武江年表卷之六

明和七年度寅 六月閏

三月十日より湯島天満宮開帳 ○ 同日より新嘉寺八幡宮より系北野社  
 司不務常神其草像奉祀親世者開帳 ○ 浅草祇念寺より之三及明顯寺柳  
 洲堂聖徳太子三尊佛本開帳 ○ 四月朔日より麻布善福寺より之越後  
 多田井波園瑞泉寺親書上人宝物本并せしむ ○ 同日より深川言信寺  
 あり奥州今津大用密寺親述如來并帳 ○ 葦場町某師如來開帳

○ 深川津の寺より身延山奥院祖師鬼子母神開帳 ○ 四月十二日より  
 深川大佛勧進所より二月堂親世者并宝物開帳 ○ 永代寺より之親念  
 寺より井畑磨屋本此地比花開帳 ○ 六月より八月迄徳田大早

大早  
 大早  
 大早

俗不以此世を力子... 六月十九日八月中旬返日向院にて...

○麻布永坂光照寺... 六月十九日八月中旬返日向院にて...

天軍帳 ○青山若光寺... 今年候縁の釈迦...

○八月十一日... 日向院にて京都伏見東福寺塔院海花院毘沙門寺...

○八月十一日... 日向院にて京都伏見東福寺塔院海花院毘沙門寺...

○八月十一日... 日向院にて京都伏見東福寺塔院海花院毘沙門寺...

○八月十一日... 日向院にて京都伏見東福寺塔院海花院毘沙門寺...

明和八年 辛卯

成り雷電為右串の一也一度のお撲身... 十一月廿六日書家小松...

○正月廿八日書家上田素鏡卒... 号陸古堂...

○二月... 村松町より出火...

○三月八日... 武助比企郡若光...

○三月八日... 武助比企郡若光...

○三月八日... 武助比企郡若光...

○四月朔日より浅草本法寺にて唐刺本茶小松系鏡息寺祖師開帳

○同日より不忍寺又内にて鎌倉極楽寺新迦如来開帳 ○本所より浅草寺内より

自性院にて信乃川東南照寺延地如来開帳 ○四月朔日より浅草寺内より

上総望地那大久保村大日如来慈野檀現開帳 ○戸傍町毎量

院にて奥乃葉折毎能寺延地如来每能上人像開帳 ○浅草寺町深空寺

文殊并開帳 ○四月八日戸雲院 ○四月八日物産家後友梨妻卒

○四月廿三日曉寅刻吉系揚屋町

○四月廿三日曉寅刻吉系揚屋町

○五月二日地震 ○五月十七日

○六月二日大地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

○六月二日地震

好

此年間記事

△儒家 宇佐美惠助備水 杉崎才茂海 井上文平金 井上源茂東 井上仲

岡井郡太史嶺 △詩文 藤弥八雀 細井甚三郎平 宮嶽三右衛門田 須知文平

葛城山人 千葉茂右衛門共 三浦左吉衛瓶 大内忠右史熊 △書家 三井孫右衛門

和親 澤田文二郎石 松下君嶽鳥 屋代左左衛門師 伊藤善茂益道 混陵山人

小河保壽 細井九皋 △和哥 加茂善洲 藤原守方 佐荷田西風 蒼生女

稻生魚彦 △物産 田村元権 平賀旭溪 後藤梨夷 △画家 狩野榮川院

鈴木鄰松 吉田紫香 佐藤嵩之 三浦花信 諸葛監文務所といふ名をとり門人より劉安生なり

△俳諧 荻原義 買明治山 田社宝馬 露十 △浮世繪師 傍川春章門人

一筆 舟文 潤 磯田湖就 柳文朝 小杉屋百龜 水行

○三井親和が篆書はれより親和派と篆字のわかれる形を澤物とて

の事はる。武家の細刃を用いし由。土草といふ館賣を中谷中堂藤編花

極是とある。境内の茶壺鍵屋のおせん 浅草奥山 猿吉本の下 楊枝店 柳屋のおお

英女のすえあり。曲亭云 明和二年の以 唐山の彩色摺ふあり

て板本師金六といふりの板摺某ふくくみ板本(見書)を分る事を工を始

四六遍の彩色摺を製し出せし程あり。和とて摺出の事とありぬと云

蜀山翁云 此説非之と高を付る彩色摺の延享元年。○明和二年の以 大坂人形を吉田

江と名吉右衛門工を始とすといふ。○富士田 柳の萩の萩友

福あり短く成り。○琴曲 生田 檢校はる。○二挺鼓とある。○朝野の弘慶子といふ某

ホが長嶺新内 節降 瑞瑞はる。○二挺鼓とある。○朝野の弘慶子といふ某

ホが長嶺新内 節降 瑞瑞はる。○二挺鼓とある。○朝野の弘慶子といふ某

ホが長嶺新内 節降 瑞瑞はる。○二挺鼓とある。○朝野の弘慶子といふ某

五十二

賣市街と云ふ

社邑祭神延敷井の子墓の  
先妻りての類う

○大晦日の夜家裏の鼠

中より一か此時代より鼠牙止まらぬ○曳尾菴云明和安永の鼠除除猫

の繪かんとて市中せおつゝ常例の着るて名を雲友といふ又蜀山の語一言  
不天の寛政の以

白仙といふもの年字あつた坊主は出羽の秋田小猫の宮あり鼠の多りありて猫と虎とを  
画きと社一校の甘納まといふ自ら猫うたと稱しと猫と虎とを画く筆を拵て都下を  
うれあつた猫もあつといひて鼠入まを画しむれば僅の價を乞く画くその猫の鼠を  
避しといふ云くとありりれ先ある 未詳

○平賀鳩溪紅毛の工レキテルと云ふ一日本にて製し始む

安永元年壬辰 十月廿五日改元

二月初午淡草寺西宮稲荷社樂を後と午後  
休む ○二月廿八日江戸天火坤より良

一花○二月廿九日乾より西南の風烈しと土烟天を履ひ日光懸然より午の刻

同是行人及山古天  
台より出火して永春町通り白金左町麻布辺一系若福寺  
ハ本堂

開山二二日新網町辺狸穴飯倉市と清町あられ靈南坂一筋ハ久保橋田

處が笑虎河門日比谷はつる場先河門橋田はつ和田倉はつ常盤橋河門

神田橋河門は焼七右道筋はつ内徳彦藩邸灰塔と成る日中橋南ハ通

三田町目西側元四日市町並町西河巻辺より南傳る町中橋を張り上橋

町並小ハ本町石町辺東西林田町武家方ハ一系小川町入口駿河町

昌平橋筋建揚河門外林田町と神田社聖堂湯橋天神社月不を急

一系上野仁王門山王社下寺不涉車坂下谷辺廣小路河徒町三味線堀坂

中入谷令松箕橋小塚原吉原町子住大橋向掃部宿淡草筋ハ下谷

廣徳寺坊通彩堀阿部川町を越辺本願寺河堂淡草寺本堂  
妙り傳法

院兼寺中馬道田町彩を越橋場少郎又同日暮六時本ハ丸山田町

より出火して森川宿道分約込白山榎城が窟入口迄うろた繩子土物店

千太本入口根津谷中感意寺某根津谷少郎羽日未刻  
以不りて止る羽日未刻

刻小風小なり或東風又成常程為外の大火は町之馬喰町二月連  
濱町辺隈町草屋町為産の芝居探芝居四座小徳町大坂町田所町徳波町  
住吉町辺伊勢町波河町室町色日本橋中橋系橋小いりる未刻双方の火  
起り此時大雨降風起るは火より六里幅一里大小名藩邸寺院神社町屋  
の類夥しく焼死怪象人其数を知らず  
上野仁豆の時は再度の焼亡之感あるべきは  
もいさき焼く麻布一軒松中付て後ハ裁割さ  
○吉原町飯宅今戸橋場山の宿為本津川八幡寄佃丁一ある芳町の街籠郎由仲丁の飯宅(出る  
○大火後仍人坂大田子再建せしその跡ある人八百羅漢の石像を造立せし雲中菴蓼太  
横山町又住吉町一は火より逃れし津川右岸堀要津中の菴より「緋橋を志まて  
青沢柳のま」といふをさし「ん翁あきうー人よりをひて百韻をみて夜を明せし」とぞ  
○三月又日より不穏并て内より系如堂徳寺稲荷明神開帳  
○四月十日より牛の所前王子修観開帳○四月十九日善方天火西より東北へ  
飛出○四月八日より小日向大日坂妙皇院大日如來開帳○魚籃觀世  
音開帳○四月より五月迄諸寺疲瀆なり○四月日谷内各新宿除舎

再興所免あり甲坊道中人馬繼立の示とありて整畧せり○大川中洲抄地  
條立成徳以町屋の安永四年不至々々今成まり  
是地ハ新天橋より南の方浜井  
家白須家菅沼家山極家等通  
川岸九丁余坪敷九千六百七十七坪余茶屋九十二軒あり其内四季庵と云しハ小東の隅の  
料理屋を殊々大度之とそ陽極ハ三軒あり其餘の家敷初より安永四年より天明八年  
迄十三年の間にこの中側の之を焼くは必す橋後徳を焼くあり一寛政元元のこと  
朱樂菱江の焼の大松隆院といふを紙に中洲の事をいひて記せり  
○七月六日画人佐脇嵩之卒  
六十八才名及賢林甚花徳其花教中称名院は華次  
初代英一葉晩年の門人あり始ハ一水と云り嵩谷これ門之  
○八月朔日二日大風自東を吹潰れ高妻野焼の小屋吹倒るり此後大く  
残氏の困苦甚し○八月五日儒師村士淡舟卒  
名宗雄林林在東の  
初代大田子小華と ○八月金彫  
工大森英昌卒  
八十 ○八月十七日大風自西を再度小屋を覆す本深川出水床  
上連なる大船永代橋を損壊○八月廿七日上野所本坊失火  
○九月式朱張通用始る○十一月朔日敷九町以上野所本坊失火  
○此冬初鷹といふ人日善里舟般を破る碑を建し海入江貞文を推す

○再按増補江戸砂子梓乃 沾涼男匠足軒門人 冬涉打討

安永二年癸巳

二月十五日儒師深見有隣卒 秋新巻傍又久吉史玄信の三男 上野護国院に葬

長命寺弁天園帳 ○三月より田向院境内一言親寺園帳 ○同寺掃屋申堂

青面金剛園帳 ○三月十日上野凌雲院失火 ○四月より洲崎弁天園帳

○同月より善光稲荷神園帳 ○四月午の日篠地小田系町浪除稻荷祭

町々出練物出出以生母体む ○三月末より夜病仍是人多死 江戸中

三月より五月まで九十九万人 所救 朝鮮人參をある ○四月よりお忍びの

上の宮弁天園帳江戸より系譜多し ○五月醫學館再建諸医師より年々

寄附銀あり ○五月十九日儒師坪井青城卒 名敏末 依草正覺寺に葬

寺日限親世善園帳 おりのて半鐘 ○七月朔日より湯島社地にて攝州

四天王寺聖徳太子園帳 六月廿六日のたきの時 逆の旗多く出 ○冬嚴寒川々の氷厚く通船自由

あふる中より諸物の價甚貴なりこれよりして正月門飾の松竹高ふりあり

名所一ゆふあふ川も氷因て通船絶一日も有し由後記草あり

○十二月朔日神田町神社仮殿にて系礼の式執り 高年系礼の年老者一ヶ寺に災 罹り本社に遠雷いまご成らば

産子の町々わり物もるふありをる有今日仮殿にて生衣のくわり 安永の始の以綿の史を 作り方々の細く

生後安永六年迄仮殿にて執り以月八亥年九月奉ありあり

墓所一覽小画人宋紫石今も終り系本形中極本も葬 由記せり極小最島扁額縮本も安永七年戌戌五月

宋紫石六十三才も乳雀を画る額を載りよりして極本もありあり 小石碑ありて忌日 慥より以又同中宗恩も其家の墓碑あれどもも小詳あり

同 三年甲午

正月廿日狩野洞庭島信卒 ○二月八日より川口善光寺淨院如來聖像

○三月昔下栲町より出火大風あて救所焼す云 ○三月十日中野娘

千年忌 ○三月十八日建部涼袋卒 五十六才牛島弘福寺に葬 画排遊を以て寒無齋と号



○同日より魚藍親世音開帳 ○四月朔日より六月廿一日迄大師河平年間  
 寺弘法大師中微福菴田向院にて開帳 ○四月四日より六月八日迄本所  
 表町本久寺祖師開帳 ○四月八日より五月十八日迄本下川茶師如來開帳  
 ○永代寺内丈六親世音 腰籠佛開帳 ○四月十八日より六月八日迄淺草寺  
 親世音開帳 ○西門外河對面所にて信助植村郡白鳥山康樂寺園光大師  
 漸彩親世音上人本像開帳 ○二本枝廣岳院にて仙臺住生寺寶牛像  
 度田光大師開帳 ○六所鉢院末本親世音開帳 西ヶ原 昌林寺 ○月三番西が原  
 無量寺親世音開帳 ○四月十八日より六月八日迄淺草寺内日音院  
 雨室童子松壽院おとく弁才天獲籠像開帳 ○淺草池の妙寺弁  
 才天開帳 ○五月十六日より龜戸天満宮開帳 ○六月六日大雷世七ヶ所小  
 落る ○六月廿三日大風雨家屋を損 樹木を倒は

○小石川傳通院山内福聚院大聖天女の次より江戸中一構中を結んで  
 甲子の系譜今年より始る ○七月朔日より獲國寺本寺如意輪親世音  
 開帳 ○同日より小石川大塚大慈寺親世音開帳 ○七月十音古筆了延卒  
七十 ○八月十音市谷八幡宮系礼神樂を演 練物未出 ○八月淨より  
一才 信元祖親賀勢内死 六十 ○九月朔日より市谷八幡宮内葉の本福菴開  
 帳 ○九月医学敏謙書成就是 ○九月廿日高土山聖天宮系礼神樂を演  
 一産子の町より出 練物を出して後休む ○九月廿一日小石川白山権現  
 系礼神樂を演 一産子町より出 練物を出して ○九月深川漆殘座止  
 ○大川橋始り掛る 俗ふ吾妻 橋といふ 十月十七日渡り始り ○十月廿二日儒師鶴益一卒 左膳  
佐盛子長意 ○画人鳥山石蕨豊房智山彦といふ繪本二巻を所より了りキボカ  
 しの彩色摺を工せしむ本を始りしに世安乃貞翁の語に 石蕨の周信の門人 あり板刻の画本也

○又此時代橋の珉江といふ繪師ありて、徳宿師ありて、摺邊の粉色を工  
夫し職人部類といふ繪本を何れも、其外俳諧の点式あど製して行ま  
し、がやうて廢れしう。○投扇の戲はまき、銭是を弄ぶ。

安永四年乙未

十二月

三月十七日より、日向院より京清水山養院景清守本尊、千手觀世音毘沙門天

勝軍地菴号開帳。○同廿九日、淡谷長谷寺より京音羽山清水寺

興院千手觀世音毘沙門天地菴号開帳。○大井東福寺櫻樹を栽種く

○四月朔日より、神田上水原大盛寺井頭系才天開帳。○津久戸明神

八幡宮開帳。○四月芝切通一時の鐘再興。○龜戸聖廟小樓門

建屋上小。○大川中洲築立地一家居建續町名を三股富永町と号

し、川辺小葺篋圍ひの茶店をうけ、夏月納涼殊々繁く、結奇畫

夜不喧

六如菴詩鈔 中津泛舟

繁華休説、湧金門行樂此、中難具論、烟暖四時花、世界月清、萬頃  
水、乾坤垂楊岸、岸樓臺出、遊舫人人歌笑、宜輸却、枕列綠底、事恨  
無、蕪白、關詞源。

中津納涼同伊藤士善

日落江天、闌暑、秋趁涼、輕舸向、中洲、燈棚夾岸、花相映、蟬臥波、  
橋欲浮、鳳管數聲、風扇扇、星河一帶、水悠悠、銀罌倒、盡人難、醉白  
綺、携、歸、滿、秋。

中津漫興

十里、清湖、鏡裡、天繁華、惱客、動留連、鷺鷥沙外、芙蓉、雨楊柳、橋頭  
翡翠、烟、猶、見、黃金、爭、買、笑、誰、知、白髮、暗、催、年、笙歌、眼底、鎮、長、滿、自  
是、來、舟、非、去、船。

○四月より、目黒明王院より、鎌倉本寺觀世音同岩殿寺觀世音同  
宝戒寺觀世音、總念女止番の舟、一番地菴并開帳。○七月より、日向院より  
伊豆三島長田寺富士山本地何孫院如來開帳。○七月より、日向院より  
相模箱根塔峯阿彌陀寺光嚴上人本地法團光佛開帳。

○七月より市谷柳町寺性院觀音開帳○八月三日より晦日まで  
 深川八幡宮開帳○月廿二日より護國寺山内より秋又二十日苗親世音  
 不務開帳○八月茅場町茶沙境内より秋野法界より朝日如来開帳○九月  
 朔日より音羽町九丁目田中八幡宮開帳○月日より廿日と飯田町世徳稻  
 荷天満宮開帳○九月十九日牛込赤城明神開帳○投壺の技行る東が  
研尋しは法と傳ふ投壺指揮投壺又勢圖解木梓行せり ○紀伊屋文九米つ山が実子  
文右衛門榮地飯田町又位一終る善しるるが能遊を好む龜山と号し後其  
髪しる明西といふ今年六十作才ふく終る ○十二月廿二日儒師  
 杉崎觀海卒名維時孫才孫 麻布系とる小葬 ○薩島よりあり一齋ヤマ猪アラシといふ歎林田村  
 屋町田村元権の家より一が後浅草寺境内より見世物といはれの大サを寄  
 小長丸骨教百本あり懸る時ハ此骨運立く忍ろしき善とあり

安永五年丙申

正月五日儒師村士一安卒名宗章号玉水林行孫 四十分約進大田と小葬 ○正月廿八日より柳島法  
 性寺妙見宮開帳○二月風邪流行○三月末より秋の路を麻彦流り  
 人多く死す○三月廿二日物産家田村元権卒名元臺淺草 小葬 ○四月廿八日詩  
 人大内熊耳卒八十分名承裕孫忠方更下谷廣徳とる小葬 葬儀男と葉室といふ ○五月六日より八月八日迄回  
 向院より伊勢白子親善子安親世寺開帳○五月朔日より矢口新  
 田町本本地十一面親世寺開帳○月日より永代とあり六々羽田年才天  
 開帳○七月朔日より永代と飛来八幡宮開帳○七月廿九日秋生道濟卒七十日大 号金谷  
祖妹の ○八月九日儒師宇佐美瀧水卒名惠字子迪孫志助四谷 南より戒りち小葬 ○柳橋若舟  
登と云船相の妻一産ふ三女を生け 名を梅松とくといふ小まの橋の端語ありといふも  
とくし小まの作りて街路ありといふとあり  
 ○品川の辺より石地藏經を讀む人ありとて皆人なりと云ふが地蔵の



弁根焼 ○六月より本丸山島若寺祖師開帳 ○六月十日傳師指垣長草卒 号白  
林後右衛門白山  
妙法寺小善人 ○夏より伊豆大島焼始り南海へ火焼出る小川沖を夜く火光天く

映するをみる ○八月十五日日向院より及栗津義仲と本寺義仲が守本  
あまの  
寺新日蓮院如來芭蕉翁像開帳 ○八月廿五日書家高山水湏平 名尚賢孫平助  
淡草松原の孫

○北秋魚鱒ありねが小田原の海中へ大魚来る其丈は五十石横八九石脊中は蛇  
の類付をねがせノウガサノとりのりある大船をも覆つたりて其以漁人  
たれく海へ出らるるあり ○十月日本不動寺内にて武島多摩郡谷保又

神開帳 別當 ○十月甲辰身延山七面宮より出火京詣の者怪象人多く  
安樂寺  
江戶よりも移りて運あはるる者多く九死一生の祥もて海府せしむりてを

安永七年戊戌 七月間

二月朔日より後叢本法よりく佐渡玉塚系根本寺祖師開帳 ○二月十二日

俄又大風起り本石町より出火靈巖島深川連延焼 ○小借町子代田

稻荷新靈宝救多由と拜せむ ○浅野家の義士堀部安云清が後  
縁組とのひし計りて嫁せざる内  
家 ま切後を十六才の時あり 薙髪して妙海と号し 龜戸村の庵室に居

たりて老後泉岳寺の門前住して義士の善徳を吊ひ居たり今  
年二月廿五日十九才より終れり ○三月三日儒師南宮太湫卒 名岳  
牛島弘福  
寺小善人

○三月廿五日より糺町平川天満宮開帳 ○鳥森稻荷新林寺日  
明作 別當 開帳 ○三月上野清水堂親世寺本堂造立あり開帳  
快也院

○三田美日新開帳 ○お横身初の日救昔の晴天八日成り今年三月廿八  
日より深川八幡宮境内においしく身初ありより十日と成り由我衣よ

見えたり ○四月朔日より牛込田福寺より本寺満寺祖師開帳  
○四月より後園寺より甲辰大聖院不動寺 新羅三弁像 開帳  
武田信玄像

○六月朔日小幡宮にて新田富士根野等八幡宮を我見寺の  
像荒人神 玉波明神虎山 開帳○同日より新田新宮中央寺大日如來開帳

○同日より同七月十七日追回白院より信州善光寺鉢陀如來開帳武時開帳

○六月十六日佛人小栗百万平西本願寺中 ○六月廿二日より多田茶師内小  
武及十茶村共光寺正親世光智法印像開扉○高橋如來より  
常陸國鹿島郡子生社宮より赤又天開帳○七月朔日より芝野宮  
社地より千住勝専寺誓大明神開帳○牛込七軒所多門院三身毘沙  
門天開帳○三田寺町意服より系引正親世光中乃根蓮東より 開帳

○七月朔日より湯島社地より武州埼玉郡野島地蔵寺開帳澤山

○七月四日書家山本榮海名智光祿元 ○七月八日小割下水花巖花巖

○七月十六日より浅草清水より千手觀世音本堂建立成  
就より開扉○七月儀より中務命院妙見宮本堂建立入佛より開扉

○七月廿八日より浅草中務院より信易善光寺越村住生より新置  
感得鉢陀如來聖徳太子 新置新親子地蔵寺開帳○下落合村某王

院釈迦如來開帳○八月廿五日龜戸天満宮祭禮社樂新到古例の如く又  
産子町より練物木出で旅以大方あり中後

○七月廿八日儒師鹿島探春卒名号房号東郭師  
西又保天徳寺小妻人

安永八年己亥

正月十四日夜青山慈野権現別當降性院自火○三河板津控現境内

武江年表

三十一

少くは旅所此等地親世寺開帳 ○川中平間寺尼除弘法大師奉  
賞修復成就不有開帳 ○

廿七 山重天宮西の藤小糸の池あり池中に石投げ等  
と号し又曰く糸の老姫の立像あり兒童石を投げ等  
小根返入といひ傳へり一年火災不罹り池も埋と石像由土中不埋れ四十年未初の人  
今年の夏下総五日市場の百姓平山忠左衛門といふ所の江にたふりし所を借りて酒樓  
を造り池を造改め三条小橋を築いて三橋亭と号し又藤の女小機を織りしめて客  
小つ存けりといふ所の石像を造り池を造りて号し首を欠くを山と名づけし今在  
りて集各婆の像あり

○四月朔日二日大寒一日又雷降 ○四月八日  
濱草本法寺之新曾妙顯寺祖師新迹如來開帳 ○四日より回向院  
より伊勢朝熊岳金剛院より虚空花菩薩開帳 ○押上最教寺蒙  
古退治こくわち 旗曼荼羅を拜せむ ○下谷徳大寺摩利支天開帳

○四月八日より淺草極寺うつくさ 結寺熊野本地延命如來えんめい 開帳  
○四月より七月迄百日のちね州江の橋本宮岩屋并又天開帳江原系信造  
○目黒小幡寺内之信及水月郡石堂村萱堂寂照房作地藏并別考 開帳

○兜岩山内之淺乃山虚空花并岳中辰鬼林堂地藏并開帳別考 延命寺

○五月十六日より廿九日止江船越寺勸進おの南於東寺二月廿九日親世寺并開帳  
○六月八日より茅場町某師内之武洲下新屋村東明寺吹上親世寺開帳  
○湯島神社地之多摩郡谷古田領新里徳性寺某師如來不動尊の并

帳 ○八月より深川八幡宮本地愛深明王開帳 ○小石川毎量院小野  
の小町の墓とて五和州より移しり由へ今年小町の九百忌より八月八日子  
法を修め小町の祥為三月 ○八月廿六日大風雨洪水和泉橋落目白下水

道橋極の落せる程あり小日向水丁辺 ○薩初彦品川の前邸琉球寺の  
筆を落て極する諸人これを珍賞す世小蓋入 ○九月二日能人梅郭菴五連平  
寺寺云小石川 ○九月より十二月迄小幡町より甚左衛門町一落りしをこれ橋也  
一多の寺一多の寺

壊ち此寺の地を埋るる ○九月十五日牛洲前寺礼社を造り後一孝子

町より出たり物や少くは中絶也○去年暑より俣豆大  
焼出夜毎西南の勢にて江戸迄も響渡れり○十月朔日夜より  
二月迄灰雪の如く降る大隅國様為焼うらが灰江戸迄響渡り

い入○十月廿三日佛人並家九世廉卒 六千と上の山下 修運ち小葬人 ○葛西柴又村歌謡

九世日 致の所 今年堂宇を修理せし小奉堂の棟上より今の帝釈天の板本

考せぬこれをもつる 是箇ちの傳つて先づ其い一奉考この日庚申小高

○今年 五日 小詳 書家烏石葛原系於小於て卒 八十五字君岳号白雲 廣傳の門人なり

○十月十八日平賀旭溪卒 石国倫 松原内号風来山人 松崎徳泉ち小葬 一とふ安永九子年二月とも云

安永九年庚子

正月八日書家後山散葉卒 名秀 盤後山流の祖 下谷長福ち小葬 ○二月十五日書家山本昌

信卒 稱菊池 三回 徳永ち小葬 ○三月以基芥千七十年供養六阿弥院兼不持信

回向○二月朔日より御島社地より上野世家田感徳山惣持ち十一面

觀世音開帳○麻布長福ち冠縁聖徳太子開帳親書上人孝八字名

号を詳せむ○千徳ち谷八幡宮祓功皇后春日明神開帳○三月朔日

市谷柳町先徳院子之親世音開帳○同日より池の妙書ち祖師開帳

○三月十五日より青山善光ち之攝津難波堀江一先之寫佛開帳 和光

○三月十六日永代ち之葛飾郡吉川延命ち地蔵尊開帳○四月朔日より

回向院より自來社より阿弥院如來社又火供正生新開帳○四月朔日分淺

多西福ち毒量壽仏 徳什物 親世 開帳○四月朔日より極樂水光系ち元木某師

開帳○四月十五日より飛舟村祥雲ち聖觀世音并深川寺町為徳ち之

開帳○目白不動尊開帳○淺草天王橋西の橋始ち撰る○四月十六日より

羅漢ち三市堂建立八月の以成就 横又坂 西國の字 百觀世音安堂供養あり 各餘



○四月房州南浦異國船漂着南系船名廿八号七十八人等とり入

○五月高田室名あし石を獲て富士山を築今月成終す○或書より六月

○六月廿四日儒師相宮親山卒 名後仍稱主鈴之孫光隆院 ○六月二日雷雨

○六月廿四日儒師相宮親山卒 名後仍稱主鈴之孫光隆院 ○六月二日雷雨

廿六日より江戸近在利根川荒川戸田川洪水村々人家を流し永代橋焚

橋落る助船を以て難を救せらる七月より米價貴し○七月朔日より回向

院を丹後天橋立成わす聖親世を對王丸代地荒る因幡○九月十

五日儒師林東溟卒 名義卿 牛島 弘福 小舞 弘 ○十月十五日山岡阿若系於小卒 名後明 林左次

○武藏志料写本成 明形君の著輯 少て今年正月

此年間に紀事

堀の内妙法寺祖師追日系諸人群集○安永始の以王子駒込谷中辺西玉

写記世を此不巡りせ定む○江戸小二十五番所田光大師巡拜所を定む

目録左小畧記○菓子屋 下谷廣小路合以 本町鈴木越後 同町同幸のちや 坂田町ととや 泉町ととや 坂田町ととや ○大佛

餅 浅草並木 下谷車坂 ○蕎麥切 浅草乃好庵 堀町福山牛島長中 雜司合菰の内

○船切 麹町 浅草元龜 ○揚枝茶釜五倍子酒中花 浅草堀内 柳屋屋外 ○料理茶屋 浅草堀内 同

○生黄鯉 浅草西太 柳屋屋外 ○田樂 浅草の 甲子夜 ○俗 目黒柳屋 雜司谷川口

○所所おに 浅草 柳屋屋外 ○蕎麥切豆腐 浅草 柳屋屋外 ○あひ雪の茶 浅草 柳屋屋外

○黄餅 浅草 柳屋屋外 ○浅草餅 浅草 柳屋屋外 ○いくし餅 浅草 柳屋屋外

末く花雪の名不約の名所をも記せり○相模取谷風掃る助小野川喜

○

○

○

○

○

○

○

○

○

三好新進雲右衛門木沢安永の頃大津川赤松 ○狂哥師 平枝東也あつたさか

蜀山人手物園持唐衣搦洲 ○軍談師馬谷 落石井魯石行

○浮世繪柄者居清長新を柄繪木更信の以より以才小巧お成 古丸堂更信を信長工更より珠小更兼お成より

志川美町倉橋 高平 哥川豊春一庵 ありる ○俳人松露菴を醉四時遊観録

といふ面搦せありて以て花曆是小始り ○浅草寺境内石地蔵寺

因果地蔵 流行る後奥山三途川焼像初成の者多し ○其先稲荷境内茶

店の婆々油揚を揚ぐおいとくといふ時靴出て食ふ皆人見と見る ○婦女の

髪さし始る ○名入温石始る ○裸人形腰折れといふりの造り始む

再按る  
小親云  
文政四  
年十月  
終れり  
小石川  
慈照院  
小華院

○小石川信通院大工を中り如くは以門前の表町南小辰已屋惣去清といふ所の田楽茶版の  
店を中りては是の勤を清生質強記をかせ以弱きを助成願る快幸の有りたる若年よ  
里作中やうの生仙として化神とて山王神田の旨の祭礼にも出て踊る或は女のわらわと  
あり小系女とあり巫女の生仙をたてとて或は若狭藩中の嬉ちの多小進てはれりといふ  
ありれともうはは文化の半の以神田祭礼の時七千餘人ありて踊りてはれりといふれも昔  
より是以七十餘人ありて終り 南畝先生文化元甲子秋若狭へ趣りて時高船の清人程赤城にお

ひまがわの石屋屋の為と成せ二ッ小割り如く面白能似たりといふれといふれと成る石屋屋が  
禹像小南畝先生の賛あり おまつりと林樂の半は辰巳屋にわかれ本娘や花ささせ前

○安永中鳥山檢校遊里小遊遊女激川を身更一巨万の金銀を費せり

此檢校諸人小金銀を貸してその利を貪り ○山王神田祭礼の時花万度せりといふ  
けりおまつひ小衆料小云せられといふり 安永中越後の遊りて女世といふ  
る紙止りれいふ地東を係りて曳万度と号し ○

天明元年辛丑 四月十二日改元 五月圓

正月八日新校本町和國鐵の店より出火あ芝居その外に焼雲巖橋小

いり ○二月朔日より浅草妙善寺にお七鎌倉名越谷長橋寺祖師屋帳

○二月朔日淨瑠璃語元祖常盤津文字太夫死 二月十五日

より回向地より下巻小金 一月寺新進如來不動尊因縁

ある林 ○三月十日十三日と多田中より肉まて 信州善光寺圓空如來新市文内

少くは 月十日十八日と沼田延命ちまて

拜 ○三月十八日浅草三社権現祭礼ありて今年林樂宗新産子の

町々分出縁物を出さ中絶 ○四月八日より圓院より山城嵯峨二宮院跡に...

系光大師開帳 ○淡草本法より下総國平賀寺祖師開帳 ○茅場町...

茶師内より和久大峯天の河原才天開帳 ○古川茶師如來極士跡院 開帳...

○敷橋宗源より甲斐國郡内小町之村西方寺十一面觀世音開帳

○目白不動尊境内にて武藏惣社住吉和宗三神開帳鎌倉大宮司

○六月五日淡草寺六天系礼神樂より縁物出さ ○六月十四日儒師井上宗...

條年名速稱形古事 ○六月十八日四谷天五福荷系礼神樂より縁物...

出さ ○秋葉系洪水江戸橋損次 ○七月初日より圓院より奥州外濱百津...

与岩中山二社本塔跡跡如來觀世音并茶師如來開帳 ○同日より淡草寺...

泉寺より武及八王子本寺より祖師并帳 ○四谷南寺町志成院塩踏觀...

世音開帳 ○東叡山護國院常念佛堂五方日圓向 ○下谷徳寺より中...

山法花經寺祖師開帳 ○七月初日湯島社地より小野社内安堂天...

満宮開帳 ○八月より淡草寺荒波不動尊開帳 ○九月晦日子刻告系伏...

見所一本江下 二丁目と云より出火一町の除焼る此處へ修宅あり ○十月十三日日蓮...

上人五百年忌法花宗寺院法堂を設く ○十月十日日蓮長老泉院開...

基徳門律師寂薛普寂号及光 ○十月廿日より十一月廿日追淡草寺觀世音...

開帳 ○隅田川兩岸一覽二巻板行成軸物を刊行するもの多敷少一霍岡蒸水の草

下谷金夜小住一長を保護す ○ちりねは淡草系跡院の中道光庵にて茶室を創り...

天明二年壬寅

三月十日より永代寺より新八幡宮本堂遷移明王新形に改修観世音...

開帳以時境内一出一巫女のおすことり ○三月七日二井親和年八十二大号...

源川寺丁傍林寺 ○三月十日より淡草寺念佛堂より淡草谷波華嚴寺十一面觀世音...

開帳 ○同日より回向院より奥州金花山新天開帳 ○芝金杖正傳寺之中山  
 智泉院鬼子母神開帳 ○茅場町某師内より小津清高の神に開帳 ○三月廿二日  
 金彫工尾崎直政卒 林縁九郎 ○三月廿九日儒師片山兼山卒 名世藩林冬彦  
五十三天田妙福  
 小華 ○四月三日儒師後茂芝山卒 六十才林縁五郎 ○五月四日細井九皋卒 名如文  
林三彦  
一男沢維乃人廣津の男 ○六月二日戲作若伊屋可突卒 江谷理世 ○六月天文  
名カ村海敬ら小華 華次林縁安  
 登坂半込某店より浅草に移る 牛込のあけ田依久 ○七月朔日より回向院  
町の小まわり ○七月十四日夜九時十音於大地震然人戸外に出るもの男少の地震ハ算(うら)  
は若ね及大山の辺との外の上り屋上より石を落し ○七月十五日より下谷正法院内より  
山留て忍らうーうー又小田東の里にてあつとそ  
 上及鼓林光昭也 延喜四年利根川より 阿孫院如來開帳 ○十月廿日俳人三坊存  
出況若光寺月科之  
 義卒 号有安房後学 ○十一月廿九日俳人谷口樓川卒 本形中 ○今年不獲水也  
世公形不華

山七切望の西五世三所写親善堂建立 印中動化を慕りて是を營む文政のうら  
破壊不及ひて今に於る 惜むべし

天明二年癸卯

正月廿六日浪蕨の程方師芙蓉花江戸小卒 平の浪蕨三傳と云 ○二月二日俳人  
浅草西福と小華  
 二世清涼卒 八十五才清上中 ○二月二日大地震 ○二月より吾妻森吾妻権  
昌泉院小華  
 現開帳 ○二月廿日より龜戸門院正親世善開帳  
 ○二月廿八日俳人臯月平砂卒 三田為林 ○三月十四日より下谷正法  
小華  
 院稻荷并本北十二面親世善開帳 ○三月十五日より浅草松雲院より齒吹孫院  
 如來開帳 ○三月十五日より回向院より鎌倉永谷貞昌院天満宮法性  
 坊本地觀世音開帳 ○青山善光と弥院如來開帳 ○浅草報恩寺親  
 善上人遺物を執せむ ○三月十八日より六月八日迄浅草寺觀世音開  
 帳 寛延四年より三年三丁目北中興佛 寺移開帳 ○同日より駒形堂より下谷正





如多福  
二月廿二日川町三修福新神岡様  
三月十五日

より廿五日迄田向院より相州岡中嚴寺より道了権現岡様  
葛西花又

村正堂等誓大明神岡様  
三月廿一日弘法大師九百五十年忌  
川傍平男

弘法大師岡様  
護持院弘法大師遠忌  
什物岡様

永代より山城宇治平治院縣社本地如多福親世岡様  
牛込系福寺

あく中山法花壇寺本堂祖師  
岡様  
法名本法寺より佐渡難太

郡小濱村妙宣寺祖師系様  
龜戸天満宮岡様  
四月より子孫谷鬼子

母神岡様  
四月より深川靈雲院より系泉涌寺新迎如来肉付

佛舍利溪心  
四月十日茶人清水玄昌卒  
四月十六日丑下刻

若系水道尾より出火廓中焼亡  
四月廿二日高

芙蓉卒  
四月廿二日刻の上よりあり  
諸國既體時腹はれ人多死也

○五月二日萩系宗固卒  
八十二才名貞辰右花園と異はゆ花院の騎士あり鳥丸光榮公の如

○六月廿五日古実者伊勢貞史卒  
七十才号安高  
西公保大業古以華

○八月十六日國業若翁田所凡卒  
五十七才称高孫  
法名全統と申集次

○九月十五日より十月十日迄千位慈照より野島津山と北系岡様

○九月十八日後藤氏十三代延宗卒  
八十才  
十一月より五年の旨他教より南後と稱

○十一月東本願寺本堂再建棟上  
十二月六日夜太白星歳

○十一月東本願寺本堂再建棟上  
十二月六日夜太白星歳

○十一月東本願寺本堂再建棟上  
十二月六日夜太白星歳

○十一月東本願寺本堂再建棟上  
十二月六日夜太白星歳

○十一月東本願寺本堂再建棟上  
十二月六日夜太白星歳

○十一月東本願寺本堂再建棟上  
十二月六日夜太白星歳

○十一月東本願寺本堂再建棟上  
十二月六日夜太白星歳

○十一月東本願寺本堂再建棟上  
十二月六日夜太白星歳

○十一月東本願寺本堂再建棟上  
十二月六日夜太白星歳

○十一月東本願寺本堂再建棟上  
十二月六日夜太白星歳

○十一月東本願寺本堂再建棟上  
十二月六日夜太白星歳





正月一日... 一刻... 返日... 既闇夜の如く

○廿二日登丸時湯島天神裏門外牡丹長家より出火西風烈しく三組町妻恋社神田明神門外并風閣より旅籠町辺内外神田より通町筋本町通日本橋迄東へ小田原町堀江町小網町堺町葺屋町友成屋芝居并迄辺大徳町小徳町所喰町淡所津川一飛火徳井町相川町大島町辺八幡宮へ有居仲丁辺焼亡翌廿三日曉迄る聖堂神田明神の本社計り残る

○同廿三日風烈しく午刻西久保大養生の所より出火赤羽版倉町と焼失寺院の光明寺の光院甚外焼亡次より飛火して田町海岸迄焼く申中刻迄幅三丁長十五町とのりし○同廿四日夜林茶川宿三百軒の餘焼る○同廿七日午刻本所四ッ目より出火釜屋迄焼る○翌夜平川新門外出火あり

○二月二日荷田善満の女茶養生卒 卒年未詳 ○二月六日午刻之

小石川蓮華寺坊指谷町二丁目より出火乾風強く丸山辺江町本元町以茶水春日町新焼致立所次第に移る○回向院への上徳玉田村称念も齒次孫院如來閣焼 ○谷中延命院七面明神宗焼 ○二月廿三日相筋松根山唱動おんがうく廿四日の以地震甚しく方日百度計震ひくと云○三月より薩國より親世言閑焼 ○三月十日夜中雪降り梅の花は積る ○三月廿二日淨瑠璃諸元祖七千才林信長勝刺繁と雀海とのり 病歿若狭掃死 後田圃車電より葬り ○早春より四月の半迄雨多く日烈風少く諸人火災の怖のそめて安きころあり

○五月の以より雨多し隔日の振ありしが七月十二日より別々大雨降續紀山水何れも洪水と成る 十三日十四日より牛込小日向知石切橋辺武家方登陸途人々水勢も水あり小石川辺を流るる所丁戸橋下家流れ江川水勢も急なり 橋の流るる由お神田上水掛植危く大勢の人を以て防がむ後水植の上を大程水流るが十七日十八日より水減り目白山崩れ上水植つが水は一月の餘流る昌平橋筋遠橋危く和泉橋板橋石流るが十五日の川水位出お小橋系の水止るも何れも水位大橋往來道水押船宿







寛政の事

○下谷三徳寺屋中楓樹数株ありて毎秋斜陽を借むの名所ありて

昔の紅葉うんといへば高きものもたつてはる程とてなりとあり○堀貫井の事昔の文小

を中古より始りこれと武家よりこれなり一と價九金三四百ありと書けり

在市中より大商家ありては海より一がて取のほや大坂より井戸掘工まで

簡易の法を以て速に掘り價も又市直に近以て江戸中堀後井多くなり町番小

大これあり 元禄の江戸康子小橋町は後の井といふなりこれより冷あり日本橋より後の新橋

より中河原家の土堀後の井を穿て流水のふくまより毛を以て子孫小舟なる飯小世の之孫とて後の

井といふと程なりこれらも堀井の之とあり一とを以てなり又元禄の以て茶屋と井を一砂利堀

田圃のありより飯より一と記伊豆屋交り茶屋堀後堀後十部方とて堀を掘り井をりて

一とて價數百金と費せりての人の足清とせり水清冷なりとて井をりて中の町茶屋井とて掘り

堀のありあり水清なりといふ○天明の始より茶屋堀後堀後十部方とて堀を掘り井をりて

の衣敷堀後○林田依橋本町山東といふ料理屋ありてこの料理屋をりてのりあり料理の之を番

明の始より世小堀りての浪花の売掃子ありて料理屋向堀といふを堀をりてのりあり料理の之を番

○天明中程の堀ありて此の世の堀ありて萬載集堀ありて後萬載集大徳集茶屋茶屋ありてこの

と程なりて中後の集敷とて下谷世小堀りて

武江年表卷之六終

江戸の事

江戸の事

江戸の事

